

# ①基本的なロングトーン

A 基本パターン:8拍のばし4拍休みの繰り返し

1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 【3 4】

リリース 吸い込む

B パターン :8拍のばしを繰り返す

1 2 3 4 5 6 7 【 8 】

吸い込む

まずはAの基本パターンにて「ド」を繰り返し  
ロングトーンする。必ずメトロノーム使用  
慣れてきたら「Cメジャースケール」でロングトーン

テンポは♩=70~80で行う

## ① Cメジャースケール下降

## Cメジャースケール上昇

## ☆ロングトーンで意識するポイント ～基本編～

### ①正しい姿勢とブレス

②譜面台から少し距離を取り目線を下げない

③音が真っ直ぐに伸びて明確なピッチになっている

④身体、アンブシュア共にリラックスしている

⑤メトロノームを聞けているか？

別冊の「SAXOPHONE上手な発音方法」に詳しい説明があります。

まずは明確なピッチと真っ直ぐに音が伸びていることを確認しながら練習していきます。ここでは美しい音色やジャズっぽいニュアンスは一切出しません。

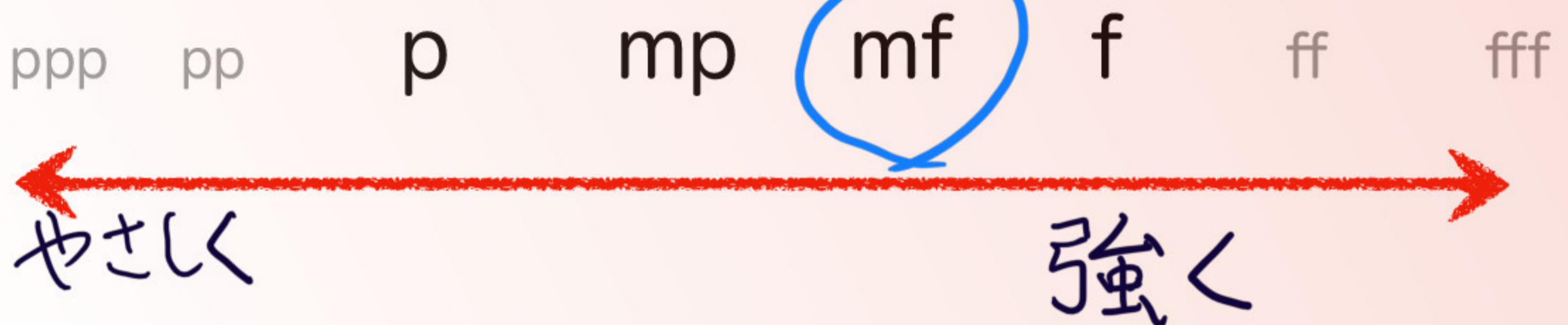
サクスの基本的な発音方法。ブレスの量やスピードの感覚をしっかりと覚えていきましょう

楽器を購入したばかりの方や基礎から練習方法を見直したい方はこのシンプルなロングトーンを最低1ヶ月ほど繰り返し息が安定して楽器に入る感覚をつかんでいきましょう。これを適当に流していると後になってアンブシュアが力んでしまったり、高音や低音のピッチが悪くなり音が安定しません。

## ②ロングトーンのバリエーション

A:音量記号について

★メゾフォルテを基準にする



**mf (メゾフォルテ)** : やや強く ~20名くらいの人前で少し声を張って話をするイメージ。  
自分の中で常にmfを基準にして発音する事。  
まずはこの音量、強さ、ニュアンスをいつでも自然にできる様に基礎練習を進める事。

**mp (メゾピアノ)** : やや弱く ~隣の人に話しかけるイメージ。  
mfを基準にそれよりも優しく、或いは暗く、深く、音を響かせていく事。

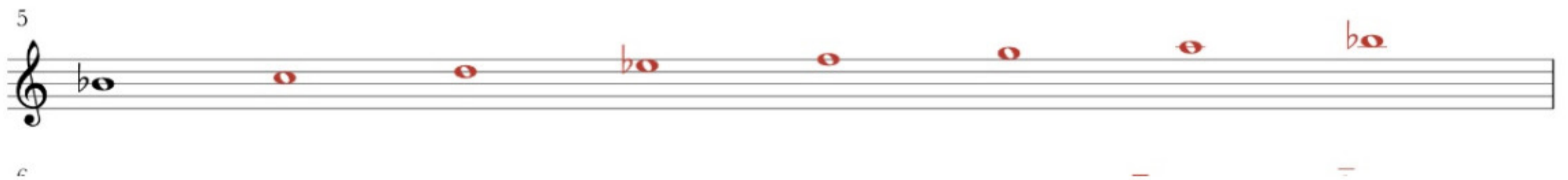
☆音量記号を意識するあまり pピアノや ppピアノニッショで息が弱く(少なく)なってしまう傾向がありますが弱く小さい音でもメゾフォルテと息は変わらずしっかりと入れていきましょう。  
音の響きが強い、豊かであるというイメージを持ってmfやf、ffを練習していきます。cメジャースケールのロングトーンでmpやp、f、ffと様々な音量を練習していきましょう。

## B.音域ごとに3つのスケールでロングトーン

低音域：Cメジャースケール（ドから始まる明るい音階）



中音域：B♭メジャースケール（シ♭から始まる明るい音階）



高音域：Fメジャースケール（ファから始まる明るい音階）



初心者の皆さんにとってフルスケール（全音域）でロングトーンをするのは大きな負担になると思います。まずは1オクターブでのロングトーンを練習していきます。

その際に指遣いとスケールの響きを一緒に覚える事。

=練習とともに体験して覚えていきます。